

立命館大学アート・リサーチセンター
文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
2017年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2018年 4月23日 提出

1. 研究課題名	
歌舞伎デジタル博物館構築(韓国語) (英文標記: Development of Kabuki digital Museum(KOREAN))	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
片龍雨(ピョン ヨンウ)	全州大学校日本語文化学科・助教授
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
赤間亮(アカマ リョウ)	立命館大学 ARC・センター長
柳政勲(リュ ゾンフン)	高麗大学校グローバル日本研究院・研究教授
林ジョン(イム ジョン)	全南大学校・助教授

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
歌舞伎は、2009年にユネスコの無形文化遺産に指定されるなど日本を代表する伝統文化である。日本文化への関心が世界的に高まるにつれ、歌舞伎の知識にアクセスしようとする外国からの要求も増えている。本研究は、立命館大学ARCが構築を進めている「歌舞伎デジタル博物館」の韓国語サービスを立ち上げることを目指す。韓国における日本伝統芸能の研究は、一部の研究者により行われ、さらに文楽や能に偏っている。「歌舞伎デジタル博物館」の韓国語サービスは、韓国の研究者に的確な歌舞伎知識を提供するとともに、一般市民にも歌舞伎のことを知ってもらうためのツールになると期待される。
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
「歌舞伎デジタル博物館構築(韓国語)」チームは、計画にあったデジタル博物館を韓国語でサービスすることを目指し、まず翻訳作業を行い、そこで浮かび上がった問題点を解決するために議論を行った。1年目であったために基本的な翻訳作業以外にも、ウェブページのサーバーの構築、運営費など、現実的な問題点を解決する必要があった。そこでまず当初の計画通り高麗大学校グローバル日本研究院のウェブページのアーカイブにページを作ってもらい、翻訳したいいくつかのページを開設すると同時に、ARCのウェブページにも韓国語のページを作ってもらい、翻訳した文章を載せることができた。

6. 研究業績

(1) 著書

・ナシ

(2) 論文

・ナシ

(3) 研究発表等

・「国境を越えた日本古典研究方向の模索－歌舞伎デジタルミュージアム構築－」、2018年4月21日、韓国に本研究総連合会 第7回国際学術大会およびシンポジウム、HANBAT 大学校

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

・ナシ

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

・ナシ

(6) 受賞学術賞

・ナシ

(7) 科学研究費助成事業

・ナシ

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

・ナシ

(9) その他

・ナシ